

## 自己評価票

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業開始前に職員同士で話し合い、「あなたが主役の生き生き生活・家族と歩む安心ケア・誰もがくつろげるほのぼの縁側」の理念を掲げ取り組んでいます。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をみやすい場所に掲示して常に共有を図っている。新人職員の研修時に管理者ばかりでなく全職員が講師となり理念を自分の言葉で教えるようにし全員が共有できる努力をしている。	○	理念を実施するために、ケア理念及び指針となる方向性を示している。今後はこれを個々のケアプランに取り入れてケアを実践していきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	自治会、老人会に声をかけ、地域で支えあえる事業所であることを伝え続けています。また事業所内では見やすい場所への掲示や家族等への説明時に周知しています。	○	掲示板や地域説明会を活用して、理念の浸透に役立てていきます。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	朝、夕に犬を散歩されている方との挨拶や、ご利用者さんの外出時に挨拶を笑顔で交わしています。また近隣の方からお花をいただいたり等の付き合いをしています。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会での墓掃除、学校の運動会への参加、自治会通じての介護相談室の実施、学校の社会勉強授業の協力と相互関係が築けるように努めています。	○	一般家庭と間違われている方もまだおられるので、アピールの意味で、庭先のディスプレイなど地域の方々といっしょに楽しめる場を作っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	老人会や婦人会の方々に対して、情報提供を行っています。また、自治会長との協力により共に相談にのったり、他のサービスや対応できるような橋渡しをしています。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	5月に開所して初めての自己・外部評価であり、現段階で取組んでいきたい理念を通じての目的を具体化させています。	○	今回の自己評価を通じて、気付けた点が多々あり、当事業所の理念に照らして改善していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に自治会長、民生委員、地域包括、利用者及び家族等に参加していただいています。これがきっかけとなって近所の方からの相談があったり、参加することにより利用者と地域の関係作りへとつながっています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業活動の中から、市町村担当者に対してもこのような対応はどうかなどと問題提起をさせていただくことにより市町村共に地域ニーズ応えられるようにしています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要な人に対しては、香西会の職員や関係者と共に話し合いを持ち知識の共有をもてるようにしています。	○	管理者や職員に対しての研修の中に盛り込みたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人研修にて実施している。また、現職員に対しても集団研修の実施や新人教育時の講師をすることにより継続的な啓発に努めています。	○	次年度は、外部研修の参加も含め虐待防止に努めていきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得	家族に対しては親切丁寧に説明を行い、納得の上契約、解約を行っています。質問等にも納得が行くまで説明しております。		
	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている			
13	○運営に関する利用者意見の反映	利用者が意見等を言いやすいような雰囲気作り。運営推進会議は利用者・家族を固定せずに出席していただき、意見や要望をサービスに反映させています。	○	意見箱等の設置や小規模スタッフとも顔なじみの関係を作って気さくに話ができる職員を増やしていきたい。
	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
14	○家族等への報告	ティアラでの様子を、面会時や電話を通じて家族へ報告をしています。	○	新聞等での定期的な情報提供やおおよそ3ヶ月に1度、面談日を設けたり、行事等への参加をすすめていく。
	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている			
15	○運営に関する家族等意見の反映	家族が意見等を言いやすいような雰囲気作り。運営推進会議は利用者・家族を固定せずに出席していただき、意見や要望をサービスに反映させています。	○	気軽に意見を言える関係を築くために、行事等への家族参加の機会を作ったり、意見箱を設置します。
	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
16	○運営に関する職員意見の反映	定期的な会議の開催と管理者の参加がない独立した委員会の実施により意見を提起できる場を設けています。	○	管理者と職員間のコミュニケーションをもっと柔軟に取れるよう情報共有を円滑化にしていく体制を構築していきたい。
	運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている			
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整	行事等がある場合など、十分な対応ができるよう人員配置に努めている。	○	個々の利用者に必要なサービスの時間帯を明確に把握していきフルタイムばかりではなく利用者も職員にも対応できる勤務体制を構築していきたい。
	利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている			

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮	入社時に対してはサービス提供前に現職員により紹介、昼食の前などは全員の前で自己紹介実施しティアラの職員であると明確にすることにより不安の軽減に努めています。人見知りがある利用者に対しては、現職員が橋渡しをすることによりコミュニケーションをとりやすくしています。	○	離職への対応方法に対しては、個々の対応に任せている。そのために今後は、利用者への配慮をどうするかを検討していきたい。
	運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み	現任者研修として新人職員の研修マニュアルを利用し基礎研修の講師をすることにより継続トレーニングを行っている。平成21年度は研修計画の作成、資格取得に向けた体制を作っておりスキルアップを進めています。		
	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
20	○同業者との交流を通じた向上	市内のケアマネ会への参加によりネットワークづくりや情報交換を実施しています。また、同業者の見学の受け入れ、他施設への見学等も行っています。		
	運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み	新規事業ということで職員へのストレスへの訴えに耳を傾けてきたが緊急なシフトの調整などゆとりが持てなかつた、今後コミュニケーションが持てるゆとりによりストレスの軽減に繋げたい。	○	情報の共有とコミュニケーションが不足している。その為に管理者等の研修の実施と職員との個別面接を実施し職員全体での体制を作っていきたい。
	運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる			
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み	個々の職員により自由な発想の元勧めています。	○	来年度より、スキルアップ体制の構築、方向性が明確になったことにより、それに向かうことの評価を実施していく。また利用者・家族からの評価も取り入れ、ケアの向上に努めたい。
	運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている			

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービス利用前に家族からの相談だけでなく、必ず本人と面談の場を設け、家族の意向と本人の意向の調整をはかりながら、本人が納得してサービスを受けていただける努力をしている。また、体験利用の機会を提供し、実際にサービス利用の上で決定できるシステムを持っている。	○ CM以外のスタッフも面接に同行する。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族からは、本人の耳には入れたくない事情などの相談もあるため、その都度個別対応するなどの配慮をしている。家族と本人との信頼関係が悪化しないよう、本人への説明内容なども充分配慮している。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	指針に明記してあるよう在宅生活で不安に思っていることなどの要因の解消を目指して対応するようにしています。	○ 原因を把握しその解消に向けたサービスを提供していきたい
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用前には、見学を通じてサービスを提供していくようにしています。また、面接時に配慮すべき点や希望を聞いておくことにより当日に良い雰囲気になじめるように工夫しています。また併設の小規模を利用してからグループホームへ移行もしています。	○ 面談時にCM以外のスタッフも同行させる。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来ることは実施していただいたり、本人のやりたいことの実現や発見が出来るように普段のサービスに取り組んでいる。また、レクにおいては笑いや本気になれる場面を設けています。	○ ケア理念の「らしさを感じ、らしく生きる」を実現していくためにはもっと職員間での情報交換の場が必要ですので、その場をもてるようにしたい。個人においてもその人らしさを追及する姿勢を養いたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係	面会時に必ず言葉で様子を伝えたり、また聞いたりしてコミュニケーションを多く持つよう心がけています。そしてご家族と共に支えあっていることを共感できる関係作りに努めています。	○	家族支援も含めたケアプランに盛り込んでいきたい。
	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている			
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援	ご家族に本人に対する思いや意向を十分に聞き取りまた本人の今までの生活や大切にしてくられたことを一緒に継続できるよう支援しています。	○	本人と家族が共に過ごす機会を少しでも多く作り関係維持に努めたい。
	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している			
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援	友人・知人が家族を通じて会いに来られたり、馴染み理美容を利用していただいています。	○	より利用者本人や家族からの情報収集を行うことにより人との関係を維持、再構築していきたい。
	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている			
31	○利用者同士の関係の支援	利用者同士の交流は積極的に行い、新しい人間関係が円滑に運ぶよう、職員が間にたって席順なども配慮している。隣接する小規模多機能ホームの入居者との交流も行っている。		
	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている			
32	○関係を断ち切らない取り組み	ご家族やご本人よりのお問い合わせや相談には契約終了後も応じています。		
	サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人とゆっくりコミュニケーションを取ったり、また他職員とのやり取りや本人の行動から推察し把握に努めています。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時に今までの生活歴や暮らし方を聞き取り、これまでの居宅や包括支援センターのケアマネジャーよりケアプラン等の情報をいただき把握に努めています。	○ ケア理念による視点を持つてのアセスメントが出来るように管理者を含め職員間へ啓発していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人や家族との交流の中で情報を集める努力を行っています。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時に家族の意向を聞き取りそれを踏まえた担当者会議で意向を反映できるようにしています。	○ 本人・家族からの意見がもっと聞けるよう、話あいの場を増やしたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入院や区分変更、サービスの再開などが発生した場合、アセスメントを実施し内容の変更を行っています。	○ 日常の様子やサービス提供の中から、発見や問題解消のヒントが見つかるよう柔軟に対応していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映	申し送りや日誌、スタッフ間でも気づいた点やアイデアを記入できるノートを活用しています。	○	サービス担当者会議時に具体的な支援方法として提案や実施ができるよう時間の工夫や調整をしていきたい。
	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている			
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援	通院などどうしても家族が付き添えないときなどはお連れしている。		
	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働	利用者の好みに応じてボランティアを活用しています。	○	ひとつのボランティアではなく利用者の好みやチャレンジしてみたいことを把握してより選択肢を広げ連携を持ちたい。
	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している			
41	○他のサービスの活用支援	ケアマネの連絡会にて話し合いを持っています。		
	本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			
42	○地域包括支援センターとの協働	運営推進会議への参加もしていただき地域の実情を踏まえた体制に努めています。		
	本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援	かかりつけ医の病院へ受診出来るようしています。遠方である場合には、情報提供、紹介状により協力医療機関へスムーズに移行できるようにしています。		
	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			
44	○認知症の専門医等の受診支援	精神科医師や、かかりつけ医への受診時に相談できるようにしています。		
	専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している			
45	○看護職との協働	法人内の看護職員との連絡体制を構築しています。	○	常勤看護職員の配置により健康管理や医療連携を強化していきたい。
	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている			
46	○早期退院に向けた医療機関との協働	利用者が入院した場合、病院へのお見舞いをかね様子確認やソーシャルワーカーとの情報共有、家族との連絡を実施しています。		
	利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している			
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化に対応できるよう環境を整えています。	○	事業所に常勤の看護職員の配置を計画しており、かかりつけ医との連携の強化と死生観・技術の研修を実施していき在宅との協力のもと重度化対応が出来るようにしていきたい。
	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援	重度化に対応できるよう環境を整えています。	○	事業所に常勤の看護職員の配置を計画しており、かかりつけ医との連携の強化と死生観・技術の研修を実施していき在宅との協力のもと重度化対応が出来るようにしていきたい。
	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている			

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止	新たな人間関係が構築できるように職員が媒体となつて対応しています。	○	リロケーションダメージに配慮していくために住み替え時に、事業所からも家族や本人に馴染みの物持込や家族間への提案などを積極的にしていきたい
	本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている			
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底	ケース記録の保管スタッフ同士で申し送る場合も利用者に聞こえない配慮を行っています。また職員指針の中に明記しており、それを職員間で注意しあえるようにしています。	○	なじみの関係を築くなかで馴れ合い的になってしまう。そのために継続的な研修や声かけが必要となるので全職員から常に発信できるようにしたい。
	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援	本人の希望や思いを尊重するためにサービスや援助内容についてわかりやすく説明を行い同意を得ています。	○	利用者の希望を引き出せるように本人を知り、選択を多く提供、または自分から提案が出来るように信頼関係が構築できるように支援していきたい。
	本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている			
52	○日々のその人らしい暮らし	利用者のニーズに対応するため利用者の行動ペースに合わせて楽しく過ごしていただけるようプログラムを組んでいます。		
	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援	訪問理容と希望者においては付き添いにより本人の望む店にいけるよう支援をしています。洗面所に使いやすいように化粧品等を用意し、洋服を選んだり身だしなみオシャレを楽しんでいます。		
	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている			

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援	今は職員も同じ食事を同じテーブルで取りながら味付けの好みについて話をしたり楽しい時間になっています。	○	盛り付けや食器に変化をつけ季節を楽しめるものにしていきたい。
	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
55	○本人の嗜好の支援	飲み物おやつは個々に好みを聞きおやつ作りに参加してもらってます。	○	お酒、タバコは希望者があれば医師との相談の上で実施するようにしていきます。
	本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している			
56	○気持よい排泄の支援	排泄チェック表をにより確認するようし、声かけ等による誘導にて排泄介助を行っています。	○	排泄チェック表からパターンを知っていき職員間で共有していきたい。
	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している			
57	○入浴を楽しむことができる支援	気の会う同士が会話しながら楽しまれています。また季節に合わせて柚子風呂など提供しています。		
	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			
58	○安眠や休息の支援	全室個室にて音や採光などの環境面に配慮している。また、夜間に不穏状態になられる方に関しては、事前に情報を把握して対応するように努めている。	○	昼夜生活リズムが逆転している方に対して、サービス利用を通じて正常に戻せるような援助をするために勉強会の実施や専門医の助言や連携を通じて取り組んでいきたい。
	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している			
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援	ドリル、写経、塗り絵、パズル、工作、レクへの参加など選択肢を用意しその人らしさを探っています。また外出や散歩を取り入れて気晴らしの支援をしています。	○	らしさを追求するためにも選択肢を増やしたい。
	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援	本人家族と相談の上可能な方に対しては自己管理としている。自己管理化困難な方については、限度額を聞いておき、領収証を持って対応しています。		
	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している			
61	○日常的な外出支援	天気等により公園や散歩に出かけたり、おやつを材料をスーパーへ一緒に買い物に行く、また希望により付き添いをして外出支援を実施しています。	○	ウッドデッキや近所の公園を利用しておやつや昼食を取るによりピクニック気分を味わえるようなアイデアを考えています。
	事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
62	○普段行けない場所への外出支援	外出行事においては家族に参加を呼びかけともに参加できるようにしています。	○	利用者が行きたいところのアンケートを取り、個々のニーズから企画をしていくように委員会を設立しており今後そこで検討していきたい。
	一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している			
63	○電話や手紙の支援	個々の要望があれば対応できるようにしている。	○	利用者から電話がしたいと要望があれば家族へ電話をしてもらってます。また年賀状づくりを始めスムーズに行えるよう支援にも努めております。
	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている			
64	○家族や馴染みの人の訪問支援	居室でゆっくり話をしていただけるよう対応しています。		
	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している			
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践	新人研修や内部研修の実施により徹底して身体拘束はしない介護に取り組んでいます。		
	運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる			

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践	夜間以外は、玄関を含めて鍵はかけていません。また内側からは解除が出来るようになっています。		
	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
67	○利用者の安全確認	日中は声かけや会話を通して体調や様子を伺ったり、夜間巡視をこまめに行い安全に配慮しています。	○	法人内の別職員が来るときに声を掛け合い日常においても注意しあうことができるように啓発していきたい。
	職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している			
68	○注意の必要な物品の保管・管理	居室掃除でスタッフも利用者と家具の配置の工夫を一緒にしたり物の入れているところを把握し不安にならないよう配慮もしています。		
	注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている			
69	○事故防止のための取り組み	ケア向上委員会から介護の質を高めていく取り組みを行っています。	○	内外研修の実施、地域との連携体制の構築をもち事故防止及び発生時の対応を強化したい。
	転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる			
70	○急変や事故発生時の備え	マニュアルや研修、定期訓練を実施をしています。	○	全職員が対応できるように訓練方法を工夫していきたい。
	利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている			
71	○災害対策	消防の立会い検査、自主訓練を定期的実施しています。	○	地元消防団との協力を実施していきたいと考えています。
	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い	状態像に応じたリスクの説明は行っています。また状態が変化した場合は起こりうる説明と共にその人らしい生活の提案をしています。		
	一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応	緊急対応マニュアル及び訓練を実施しています。入社時においても必ず説明してから本格的な業務へつくようになっています。		
	一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている			
74	○服薬支援	看護職員によるチェックを基本とし、職員は服薬チェック表と飲んでいる薬を見合わせることでより安全に実施しています。		
	職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている			
75	○便秘の予防と対応	水分と運動により便秘の解消に取り組んでいます。	○	便秘に対しての知識を深めるために研修への参加、勉強会を実施していきたい。
	職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる			
76	○口腔内の清潔保持	食後には必ず歯磨きや口腔ケアを実施している。また、義歯の日々の手入れを行い衛生面で清潔に保つよう支援しています。		
	口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている			
77	○栄養摂取や水分確保の支援	クックチルの食事により栄養量が管理されています。また、医者との連携により栄養、水分制限がある方には個別に対応しています。		
	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防	感染症マニュアルを作成しており、利用者の個々の状態にあわせて対応しています。		
	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）			
79	○食材の管理	食事用と持ち込みようは区別して保管しています。また、食中毒予防マニュアルを作成し、熱湯消毒、次亜塩素による消毒を実施している。		
	食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている			
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫	入り口はバリアフリーとして設計しています。玄関周りは障害物を置かない事、入ってもすぐ座れるようにイスを配置しています。		
	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている			
81	○居心地のよい共用空間づくり	設備に対しての環境面では利用者にとって配慮できるようにしています。季節感を取り入れるように雰囲気を考えるようにしています。	○	共同生活の場ではあるが、ひとりひとりの趣味嗜好がとりいれられるよう、利用者の意見も取り入れながら、環境整備に努めたい。
	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり	フロア内以外にも共有スペースを設けており本棚を設けたり、ソファを設置し利用者同士がくつろげる空間を設けております。	○	共同生活の場ではあるが、ひとりひとりの趣味嗜好がとりいれられるよう、利用者の意見も取り入れながら、環境整備に努めたい。
	共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている			

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮	個人の愛用、なじみの品は原則、その都度持ってきていただけるようにしています。		
	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			
84	○換気・空調の配慮	職員間で室温や湿度に対しては意識できるように啓発しています。また、利用者に対しても随時聞くようにしています。		
	気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている			
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり	利用者の導線を確保できるように常に考えて椅子やテーブルを移動しています。	○	フロアでの日常の中に在宅生活が支援が出来るような工夫を利用者のケースの中から検討していきたい。
	建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している			
86	○わかる力を活かした環境づくり	宿泊者には居室がわかるように名札を個々にあつたように明示しています。また、トイレについて矢印をつけたりして配慮するようにしています。	○	利用者が自信を回復できるような支援を見つけて実践していきたい。また、利用者同士の関係からわからなくても(この人になら聞けるなど)安心であるというような人間関係を構築していきたい。
	一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している			
87	○建物の外周りや空間の活用	散歩や公園を利用しています。	○	フロアから見える庭を活用して地域と利用者の交流のきっかけを検討しています。また、施設周りを利用した機能訓練も実施していきたい。
	建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている			

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

指針として「在宅で生活するために」ということを掲げています。グループホームは利用者にとって「在宅」であり、「その人らしさ」を発見しながら地域との関係や生活環境を再構築し、在宅での生活を支援していきたいと考えています。